

# 突風から

## 連作和歌 百首歌集

[桃李歌壇](#)

[目次](#)

2009/4/2-4/20

8301	物語りはあの突風から始まった広場の鳩がいつせいに飛び	たまこ	4月2日 13時16分
8302	仮面にて告白すればシャンデリア墜ちて砕けし巴里のオペラ座	丹仙	4月2日 18時22分
8303	豊穡の世を願へども叶はざり三島椿に露はこぼるる	光源氏	4月2日 20時16分
8304	元禄の七年五月俳聖は三島大社に参詣せしと	弁慶	4月2日 21時16分
8305	行く川に気泡とみゆるは涙粒(なみだつぶ)春を惜しみて魚が流す	たまこ	4月3日 00時22分
8306	今年とていつもの辺り散り散りに散りては集く花筏かな	重陽	4月3日 05時35分
8307	舟ペリを音符のやうに魚は撥ね堰かれて光る花びら鱗	真奈	4月3日 15時35分
8308	半世紀前の卒業記念なり手植ゑし桜花の下みち	丹仙	4月3日 15時43分
8309	兎小屋掃除してからお別れの赤い目同士右に左に	やんま	4月3日 18時43分
8310	「消息」とふ文字は寂しい飛行船を二人あおぎし春がまた来る	たまこ	4月3日 20時05分
8311	満開にこぼるるひかり青い空かの人はいま時の流れに	くりおね	4月4日 06時21分
8312	ぼんぼりを灯す如くに山笑ひとりわけしかと大山桜	重陽	4月4日 09時23分
8313	花開く青春の日よいつまでも続けと願う桜並木よ	光源氏	4月4日 09時31分
8314	アキレスの憤怒の歌を朗詠す君なき四半世紀歩めり	丹仙	4月4日 12時05分
8315	高校の国語の先生褒めそやすアシルと亀の子小林秀雄	弁慶	4月4日 12時49分
8316	激動の時を迎えしみちのくに奇跡起これと祈るおぼろよ	光源氏	4月4日 17時36分

8317	人智とて人は奢りて果てもなく今こそ祈る心持つなむ	重陽	4月4日 18時37分
8318	すこやかに過せる日々を是と思ひもたれ合はずに開けの心で	真奈	4月5日 07時27分
8319	遮断機のバーが開いて駆け抜ける迷ふ時間は私にはない	たまこ	4月5日 09時47分
8320	ひとひらの桜を愛でし春の宵ことわり開く現し心に	光源氏	4月5日 15時02分
8321	かよう血に ふっとふるえて ゆびの夢 はしゃぐ娘と ろっかくあやこ	真	4月6日 03時29分
8322	飛んだかと誤報実報入り乱れ六角綾なす国の思惑	真奈	4月6日 09時19分
8323	こんなとき必ず出てくる評論家「飛翔物体」いきいき語る	たまこ	4月6日 11時48分
8324	騒ぐからもっともつとならず者ぞ知らぬ顔は出来ぬものかや	重陽	4月6日 15時27分
8325	日ノ本の憂いを救う名目で再び行くか軍拡の道	光源氏	4月6日 16時41分
8326	オリキャンを終へて再び花のもと平成生れと交はず挨拶	丹仙	4月6日 21時22分
8327	雨師として葬りし昭和天皇は知らずテポドン飛び交う御代を	かわせみ	4月7日 00時51分
8328	さらばとて静心なくすめろぎのせきとめ難く袖を潤す	光源氏	4月7日 09時34分
8329	菜の花の土手をかけ行く野良猫の覚悟を決めしもののがしさ	たまこ	4月7日 20時35分
8330	菜の花の沖に浮かびし実朝の歌の小島に今日も白波	弁慶	4月7日 21時40分
8331	生と死の間(あはひ)にありて万葉の歌詠みし汝(な)は海底(うなそこ)の鐘	丹仙	4月7日 22時51分
8332	わだつみの底なる苑の幸(さきはひ)を忘れかねたる浦島の裔	かわせみ	4月8日 02時00分
8333	ただよひてちから尽きねど月はなほ手づを伸べやるともがらなるや	光源氏	4月8日 21時31分
8334	乳母車の子と車椅子の古い母と手を振りかはせば花散りかかる	たまこ	4月8日 22時14分

8335	車椅子押しつつ歩む花のなか祖母の昔の物語り聴く	丹仙	4月8日 23時05分
8336	花の音が 光ひらりと 聞く春は 猫が背に描く 桜遊びよ	真	4月9日 11時32分
8337	光浴び私語ひそやかに花の降るエスポワールの鐘燿ひのなか	真奈	4月9日 19時48分
8338	くらき闇ひそみにひそむ濡ればみはただひたすらに光もとめむ	光源氏	4月9日 20時16分
8339	弟子達の裸足を洗ふ師のこころ誰ぞ知るらむ木曜の真夜	丹仙	4月9日 22時43分
8340	「のびやかに真っ直ぐ歌え」先生の教へは今もわたくしの芯	たまこ	4月9日 23時30分
8341	満月に麒麟翔びしを見るやうなあらぶるものを詩心とや言はん	真奈	4月11日 00時44分
8342	疎句禅と親句の教を説き給ふ吾が師の歌に倣ふ百韻	丹仙	4月11日 10時56分
8343	目のまえを翹音たてとぶ蜂ふたつ逃げる波動にぴたりよりそう	くりおね	4月11日 13時29分
8344	Webにて波長相似の知己を得て日々の交わり早も十年	重陽	4月11日 18時25分
8345	朝にはつぶやく堂のいちご摘み夕べは桃李の花飾らなむ（祝一語三萬句）	丹仙	4月12日 09時35分
8346	幾年をつぶやく声のうらうらと輩つどひ春の乾杯	真奈	4月12日 10時57分
8347	春がすみ風にふかるる花びらの舞ひあげられし渦巻くひととき	れん	4月12日 13時47分
8348	渦潮の上を越えゆくただ一度の生と思へば迷ふ暇なく	たまこ	4月12日 23時11分
8349	海峡を渡る蝶なり瀬戸内の小島の埠頭想ひひたすら	丹仙	4月13日 20時33分
8350	波の上黄蝶一匹飛んで行く韃靼蕎麦を啜りつつ見る	弁慶	4月13日 20時41分
8351	波乱なるひと代ひたすら生き来たり庭の満天星しろきは盛り	れん	4月13日 21時37分
8352	行きゆきて鉄路の先の荒星のはるか無底のしずけき逆光	真奈	4月13日 22時30分
8353	オーロラのあのオーロラの激しさにうつつ心に天が動くと	重陽	4月14日 08時59分

8354	月光の淡あはと部屋にゆれてゐて亡き妹を感じてゐるも	たまこ	4月14日 11時23分
8355	時鳥過ぎ行くかたを眺むれどただふる袖に月は濡れゆく	光源氏	4月14日 15時28分
8356	ほととぎす春の心の折もありひとつの音色鳴らすひたすら	真奈	4月14日 21時33分
8357	鳴きつらむしげき草葉にうち出づる春の霞に思ひみだれて	光源氏	4月14日 22時40分
8358	ほととぎす一声のみにすぎゆけり霏のかなたに君いますらむ	かわせみ	4月15日 09時21分
8359	いまはただ木蔭にとどむほととぎすとどこかぬ思ひ嘆き鳴からむ	光源氏	4月15日 09時57分
8360	相聞の歌の響交ひ初夏の日に吾と汝に閉ぢし壁消ゆ	丹仙	4月15日 10時41分
8361	たまゆらのいのち燃やせよ相聞の一葉風に光る初夏の日	真奈	4月15日 11時51分
8362	君がためそぞろ綴りしたよりには國を思ゆる風が吹きにし	光源氏	4月15日 12時44分
8363	まつすぐな視線だけれどやはらかにわたしは心を全開にする	たまこ	4月15日 15時26分
8364	窓外の目線の少し上あたり鎌倉山のみどり闌けたり	重陽	4月15日 18時21分
8365	鎌倉や春の装い若緑化粧坂なる谷戸の奥まで	弁慶	4月16日 06時58分
8366	卯月なる銀杏若葉の目にしるく生きた化石のみどりはもえて	れん	4月16日 14時33分
8367	アンモナイトのやうな若葉の薇(ぜんまい)を風がそよがす時空を越えて	たまこ	4月16日 17時53分
8368	春風にみだれてなびくあや織りはおぼろ月夜の名を惜しまずや	光源氏	4月16日 20時49分
8369	万物の夜に目覚めしバガヴァッド・ギータは歌ふ自己の似姿	丹仙	4月16日 21時30分
8370	たへまなく修羅の輪廻はくりかへしつづみに踊る限りなき業	光源氏	4月16日 22時04分
8371	風そよぐ歌の翼にのり行けば遥かガンジス蓮のかぐはし	真奈	4月16日 22時49分

8372	喜ぶる命かぎりの咲く花は揺るぐ光にただ語らずや	光源氏	4月17日 00時17分
8373	玉手箱あけてみるみるすぎにけり竜宮城の亀はいずこに	くりおね	4月17日 07時17分
8374	漸くに下火になりしスギ花粉一年過ぎしことを思えり	重陽	4月17日 08時21分
8375	過ぎがてに頼る夜更けのうちしぐれこの身にしみるほどはなきしも	光源氏	4月17日 09時02分
8376	「咲ききはまれば雨を呼ぶらし」歌を添へ故郷の友より手紙がとどく	たまこ	4月17日 12時21分
8377	今は亡き母のくせ字の懐かしき指折りみれば今のわが歳	重陽	4月17日 17時20分
8378	面影を見ゆらむものを深草の露はかかるや忘れへずして	光源氏	4月17日 18時19分
8379	音を引き救急車がゆく萱の葉の葉尖に夜露の玉むすぶころ	たまこ	4月17日 19時25分
8380	音もせず萱屋にひとり乱れなば涙の玉は消ゆることなし	光源氏	4月17日 19時59分
8381	鳥飛べば鳥の如しよ今日からは「らしさ」を捨つる「如し」に生きむ	丹仙	4月18日 00時17分
8382	在る如く続き来たりしゴルフ会年ごと増える急なキャンセル	重陽	4月18日 05時39分
8383	生き方の振り子のゆれの共振す貫く棒の1本あるらし	くりおね	4月18日 09時25分
8384	いま此処に生きるわれらの歌ごよみ付けて転じて展けゆく窓	真奈	4月18日 10時41分
8385	わが家の外壁塗装に窓を閉めカーテンも閉め虎魚(おこぜ)の気分	たまこ	4月18日 13時31分
8386	我が顔を鏡で見れば巖つくて虎魚の如しとふと思ひけむ	弁慶	4月18日 15時40分
8387	宵闇にしぐるひそみはのぞこるも宿れる月のまねく袖かな	光源氏	4月18日 17時31分
8388	宵あかり浮かびし花のときすぎて葉桜ゆたかに風にゆらげり	れん	4月18日 23時07分
8389	朝ぼらけ大川端は葉桜にマラソン人の行き過ぎにけり	真奈	4月19日 06時26分
8390	いきいきと時のうつりにおくれまい宇宙は進化しつづけており	くりおね	4月19日 06時28分

8391	あはれふるさとの春 友に向けるカメラレンズに花びら流れ	たまこ	4月19日 07時31分
8392	倫敦の沙翁舞台の華やぎて三味の音流る歌舞伎十二夜	丹仙	4月19日 12時08分
8393	紫に染めし宮居のはなやぎにからみまひらす藤の袴は	光源氏	4月19日 14時15分
8394	閃くや熱海の春の大花火夜叉の華やぎやがて戻らん	重陽	4月20日 09時14分
8395	花散らしの雨はいつそ華やかに降るべし夜叉の笑ひのやうに	たまこ	4月20日 12時12分
8396	峰々に青葉若葉の好時節南アルプス夜叉神峠	弁慶	4月20日 18時49分
8397	夜叉姫の面影うつす水鏡やがて濡れゆく姿わびしき	光源氏	4月20日 19時44分
8398	誰が笛ぞ胸に棲む夜叉ねぶらせて誘はれゆく花の闇へと	真奈	4月20日 20時04分
8399	かきくらす闇に惑ひし夢の世の妖しき花に心明かさむ	光源氏	4月20日 20時38分
8400	暖かき風が吹くなり鎌倉の花散る午後の雪ノ下なる町	弁慶	4月20日 21時44分